

仙台の次世代経営者 presence 対談



(株)清月記専務取締役
菅原 啓太氏

すがわら・けいた
1988年仙台市生まれ。中央大学経済学部卒業。(株)清月記専務取締役。2021年1月1日より仙台青年会議所理事長。22年1月1日より日本青年会議所総務委員長。趣味は旅行。

連載 第2回

仙台を拠点に、日本国内ばかりでなく、世界市場を見据えながら事業を展開している若手経営者層に、活力ある仙台の経済活動や人材育成の在り方、そしてこれからの時代を生き抜くために必要な価値観や視点を、(株)清月記の菅原啓太専務が切り込んでいきます。

東北を世界地図に置くための三つのミッション

菅原 櫻井さんは全国各地でインバウンドに特化した研修や講演、櫻井さんがプロデュースしたYouTubeチャンネル「Abroad in Japan」は登録者数260万人という英語圏の外国人が見るチャンネルとして日本最大級と聞いています。またご自身が開設したチャンネル「Rotaro's Japan」も開設1年で登録者数10万人を超えたそうですね。

櫻井 私は、東北という名前の場所を、世界地図に置くことを狙っています。そのために、わが社のミッションは大きく三つあります。一つはPR事業です。日本のことを知りたいほとんどの外国人は、YouTubeなどSNSのメディアを使って、東北を

中心とした土地の魅力を15分程度のYouTube動画にしています。しかもこれまで多くの外国人が触れてないものばかりです。

大切なことは、その動画を見ることで、その場所に何かあるかも知れない、もっと知りたいと思ってもらえることです。例えば、ずんだシエイクの動画を見て、その地域はどのような場所か、どんな食文化や歴史を持っているんだろうと思ってもらえることです。

菅原 この国の方が多くいますか。

櫻井 アメリカ30%、イギリス10%、あとはオーストラリア、カナダ、ドイツ。アジアでは、フィリピン、シンガポール等からのアクセスが多いですね。ミッションの一つめは、外国人観光客などの日本での受け入れ環境の整備とツアーの作成です。いかに外国人が満足してくれるかと

いう視点から、メニュー作りやそのネーミングまで、私どもの実経験などを通じて具体的に提案します。

子ども英会話教室のKids Duo、錦ヶ丘アーリー迎賓館とイタリアンレストラン、旅館業の土湯別邸の湯、懐石料理 東洋館など、スガワホールディングスとしてさまざまな事業を展開しています。創業当時から、お客さまの人生をより豊かにするためにテーマに事業を展開しています。

「人生をより豊かにするために」をテーマに事業展開

櫻井 意外なことですが、この国のどの世代でも、日本の昭和が好きなんです。三つめのミッションは、翻訳業です。どう書けば外国人が興味を持ってもらえるか、翻訳というより編訳ですね。つまり、魅力をいかに伝えるか、見せ方なんです。菅原さんは、葬祭業がメインですね。



地下鉄泉中央駅ビル内にあるライフブリッジのオフィス

多くの料亭は平地にありますが、あそこは天空にある。

大切なことは「想起率」にあるんです。

櫻井 多くの外国人は、日本古来の建築に興味を持っています。料理、歴史、伝統、文化など、時間と距離

を使って、そこでしかできない体験をする価値があるのかなんです。行政はよく、国別ごとのテーマという分け方をしますが、日本人同様、外国人も人それぞれなんで、テーマで区切ることがとても重要なんです。そして大切なことは、何かを思い出したときに、人間が一番最初に何を思い出すのかという想起率なんです。例えば、仙台の料亭に行きたいと思ったときに、東洋館が一番に思ってもらえることです。

菅原 新しい事業は。直接結ぶインターネット販売に取り組めます。農産物やお酒等を生産者が、SNSを通して直接消費者にアプローチができるプラットフォームづくりに取り組めます。

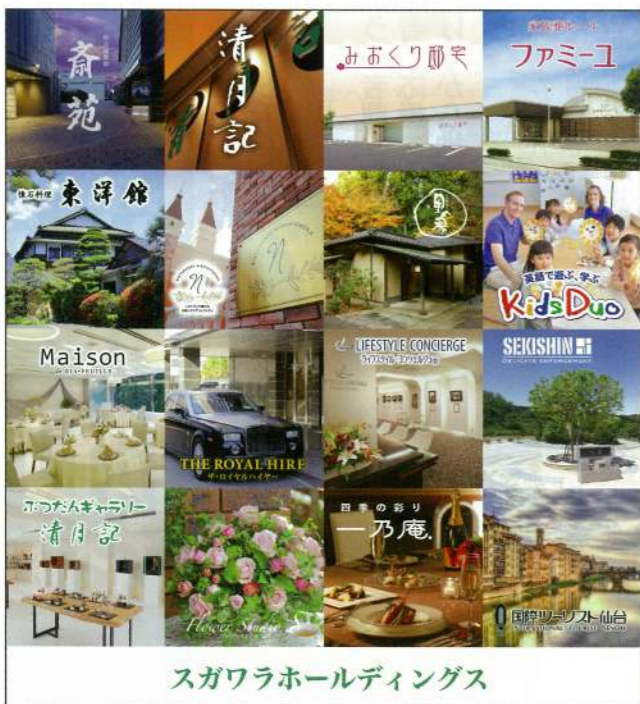
櫻井 仙台をハブにしたいという割には、交流が少ないんです。仙台の街を人流の交差点にすることで、行政側は、市民の幸福度を高めること。例えば就職や離職しやすいような、ストレスフリーな仙台とするための環境作りを、特区制度などを考えてほしい。日本ばかりでなく世界からも注目され、人口移住が進みます。

(株)ライフブリッジ 櫻井亮太郎氏



さくらい・りょうたろう 1973年生まれ、仙台市出身。1992年東北学院中学1年時にアメリカシアトルのルーズベルト高校へ入学。96年ロンドンリッチモンド大学国際経営学科卒業。ドイツのIT企業や信託銀行など10年間の海外生活を経て帰国。2006年仙台市で(株)ライフブリッジを設立、代表取締役就任。趣味は旅行。

(企業プロフィール) 「東北を中心とした土地の魅力の発信、インバウンドなど受け入れ体制整備のための研修、ツアー作成、どう書けば外国人が見るかを視点とした翻訳業」がミッション。従業員数は7人



「次の仙台」をどう創るか——経済力、人材育成……